

国指定史跡

え げ の や ま い せ き

会下山遺跡



会下山遺跡と六甲山地（手前は阪神芦屋駅。背後には六甲山地が広がる。）

会下山遺跡は、兵庫県芦屋市三条町の「会下山」と呼ばれる山にある弥生時代（約2000年前）の集落跡です。標高200mの山頂からは、南に広がる芦屋の市街地や大阪湾だけでなく、東に西摂・大阪平野や生駒山系の山並みを、西に神戸市東部の街を見渡せます。このような、大変見晴らしの良い高い場所にある弥生時代の集落を「高地性集落」と言い、会下山遺跡は代表的な高地性集落として、平成23年（2011）2月7日に国の史跡に指定されています。

弥生時代とは？

中国大陸や朝鮮半島から日本列島に伝わった稲作や金属器（青銅器・鉄器）が各地に広まった時代で、紀元前4世紀頃から紀元3世紀頃まで続きました（弥生時代の始まりについては、紀元前10世紀頃とする説もあります）。稲作が本格化する中、ムラどうしは盛んに交流するとともに、土地や水をめぐって争いました。そして、各地で有力なムラは周りのムラをまとめてクニへと成長していきました。



会下山遺跡からの眺め（山頂から南東方向）

遺跡のようす

会下山遺跡の範囲は、山頂から山すそまで山全体に広がっており、これまでの発掘調査でさまざまな生活の跡が見つっています。

たてあなじゅうきよあと 竪穴住居跡

竪穴住居跡は当時の住まいの跡で、9棟見つかっています。竪穴住居は平面が円形で、屋根を支える柱が4～5本あります。大きさは直径5m前後のものがほとんどです。最も大きな竪穴住居は直径が8～10mあり、他の竪穴住居より少し高い場所につくられていました。この建物にはムラのリーダーが住んでいたのか、あるいはムラ人たちが共同で使う施設だったのかもしれませんが。



最も大きな竪穴住居跡



尾根上に連なって見つかった集落跡（昭和30年代）

地元の中学生たちが発見した会下山遺跡

昭和29年（1954）、会下山遺跡のすぐそばにある芦屋市立山手中学校では、裏山（会下山）に植物実習園をつくるための道づくりが行われていました。この時、作業に参加していた生徒たちが偶然、弥生土器の破片を発見したのです。この発見を受けて、昭和31～36年（1956～1961）に発掘調査が行われました。その結果、山頂や尾根から弥生時代の竪穴住居跡や土器・石器などが次々と見付き、稲作に適さない山の上に紀元前2世紀頃～紀元1世紀頃（今から1900～2200年前頃）の集落跡があることがわかりました。そして、会下山遺跡は弥生時代の人々のようすを伝える貴重な文化財として、昭和35年（1960）には兵庫県史跡第1号に指定され、さらに平成23年（2011）に国の史跡に指定されました。



昭和30年代の発掘調査のようす

これまでの発掘調査で、
竪穴住居跡（9棟）や、祭
りを行ったと考えられる場
所（2ヶ所）、火たき場跡
（2ヶ所）、墓跡（4基）、
柵跡（1ヶ所）、堀跡（2
条）、ゴミ捨て場跡（1ヶ
所）などが見つかっていま
す。



上空からみた会下山遺跡（昭和30年代）

火たき場跡

穴の中で高温の火を使った跡が2ヶ所で見つ
かっています。これは、野外の調理場やノロシの
施設、土器を焼き上げるための施設など、さまざ
まな説があります。

ノロシは通信手段が未発達な当時、情報を伝える
ための有効な方法です。ノロシをあげて、遠方
の緊急事態を周辺の集落に知らせていたのかもしれ
ません。



ふくげんたかゆかそうこ
復元高床倉庫

高床倉庫を1棟復元しています。高床倉庫は集
落全体で共同管理されていたと考えられ、数棟の
竪穴住居に高床倉庫が1棟あるようすを想像でき
ます。



集落の北端をめぐる堀^{ほり}

集落の最も北側で、二重の堀跡が見つかってい
ます。幅は約3～5.5m、深さは約1.2mありま
す。敵や動物の侵入を防いだり、集落の境界を区
切るためのものであったと考えられます。

会下山遺跡から出土した道具

会下山遺跡からは、弥生時代のさまざまな道具が出土しています。



土器

壺・甕や高杯など、さまざまな種類の土器が出土しています。中には河内(大阪府)、讃岐(香川県)など、遠くの地域から持ち運ばれてきた土器もあり、会下山遺跡の人々が遠い地域と交流していたことがわかります。

石器

矢尻(石鏃)をはじめ、鏃・剣・斧・叩石・石鏃・磨石・錘・砥石・投石弾・軽石など、武器や生活の道具が出土しています。

青銅器・鉄器

青銅や鉄などの金属製の武器や道具もみつかっています。中でも、青銅製漢式三翼鏃(芦屋市指定文化財)は、中国大陸で作られたもので、大変貴重です。



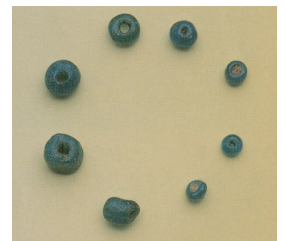
青銅製漢式三翼鏃

なぜ山の上で生活したの？

弥生時代の人々は稲作を中心に生活していましたが、山の上は稲作に適していません。ではなぜ、会下山遺跡をはじめとする高地性集落は、このような標高の高い山の上にあるのでしょうか。この謎について、これまでにさまざまな説が考え出されています。たとえば、「争いに備えた見張り場や逃げ城」という説や、「洪水などの自然災害から避難した」という説、また、「木器の素材を手に入れるため」、「鉄器を製作するため」などの説があります。他にもさまざまな説がありますが、高地性集落の謎は、まだまだ分からないことばかりです。

その他

装飾品として使われた、直径1～4mmのガラス小玉がいくつか出土しています。また、当時は木の道具(木器)も使っていたはずですが、2000年の長い間に朽ちてしまい、残っていません。



ガラス小玉

編集・発行

芦屋市教育委員会 社会教育部 生涯学習課

〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7番6号
TEL: 0797-38-2115 FAX: 0797-38-2072

令和3年3月31日発行